

1人1台端末環境に対応した 教員養成および教員研修のあり方の提案の試み

谷塚光典^{*1}, 森下孟^{*1}, 林寛平^{*1}, 佐藤和紀^{*1}

^{*1} 信州大学

Proposal of Preservice and Inservice Teacher Education Corresponding to One-to-One Computing Environment

Mitsunori YATSUKA^{*1}, Takeshi MORISHITA^{*1}, Kampei HAYASHI^{*1}, Kazunori SATO^{*1}

^{*1} Shinshu University

In this study, based on the survey on professional development school classes related to "ICT use in schools" and the learning outcomes of the classes, We will try to propose the future classes in preservice and inservice teacher education for one-to-one computing environment toward the realization of the GIGA school concept.

キーワード: 教職大学院, 教師教育, 授業研究, ICT活用指導力, GIGA スクール構想

1. はじめに

2020年1月の「Society5.0時代に対応した教員養成を先導する教員養成フラッグシップ大学の在り方について(最終報告)」では、教師に求められる役割や力の1つとして「先端技術を効果的に取り入れたICT活用指導力」が挙げられ、こうした力は教師の養成・研修を通じ教職生活全体にわたって育成・充実を図っていくことが望まれるとしている⁽¹⁾。また、2017年10月の「大学院段階の教員養成の改革と充実等について(報告)」では、教職大学院に共通に開設すべき授業科目として、「新たな学びに対応する必要性や教育委員会等からの要請が高いことを踏まえ、現代的な教育課題として、特別支援教育やICT教育を取り扱う科目をそれぞれ共通科目の一部として必修とする。」としており、教職大学院におけるICT活用指導力育成の必要性が示されている⁽²⁾。

そこで、本研究では、「学校におけるICT活用」に関連する教職大学院授業の開講状況とその履修による学修成果から、GIGAスクール構想の実現に向けて1人1台端末環境に対応した教員養成および教員研修のあり方の提案を試みる。

「学校におけるICT活用」に関連する教職大学院授業としては、Webシラバスや文献調査から、信州大学、岡山大学、大阪教育大学を取り上げる。

2. 「学校におけるICT活用」に関連する教職大学院授業の開講状況

2.1 信州大学教職大学院

信州大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻(教職大学院)は2016年度に開設された。開設の時点から、1単位の選択科目として「学校におけるICT活用」が開講されてきた。2020年度の改組後は、教育課題探究プログラムの選択科目に位置づけられている⁽³⁾。

授業の概要を「授業参観とその検討及び授業実践とその検討により、小グループで展開する」としており、授業参観と授業実践を「①ICT活用授業の設計、②ICT活用の効果、③ICT活用による個々の児童・生徒の変容および学習集団としての学級の変容」の3視点から検討するとしている。そして、授業のねらいを「タブレットPCや電子黒板等の最新のツールの効果的利用法や、ネット環境において配慮すべきセキュリティやマナー等の教育を具体的に学び合う。また、新学習指

導要領に対応した教育実践のための ICT 活用法も追究する。」としている。

2.2 岡山大学教職大学院

岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）では 2020 年度、「今日的学力に対応するに関する科目群」の 1 単位の選択科目として「学校における ICT 活用」が開講されている⁽⁴⁾。

授業の概要として「学校教育における ICT の活用について、これまでの歴史や現状を踏まえた新しい教育の在り方を検討し、授業等での ICT の効果的な活用の仕方を探る。」としており、全 16 回の授業の中で、「教育現場における ICT の普及現状」「教育現場の ICT 機器の特性と使用状況」「教育現場における ICT の位置付け」「学習効果を高める ICT の活用（効果的な資料提示）」「学習効果を高める ICT の活用（思考支援）」「情報の管理とセキュリティ対策」「情報モラル」等が含まれている。

学習目的を「学校教育における ICT の活用について、これまでの歴史や現状について理解するとともに、ICT を活用した学習指導のこれからの在り方について見方や考え方を深める。」としており、その到達目標としては、「学校教育における ICT の活用について、これまでの歴史や現状について理解するとともに、ICT を活用した学習指導のこれからの在り方について見方や考え方を深める。」としている。

2.3 大阪教育大学連合教職大学院

大阪教育大学連合教職実践研究科（連合教職大学院）では、選択科目として「ICT 環境の活用」を開講しており、教員免許更新講習との連動を試みている⁽⁵⁾。

授業の概要として、「学校現場のタブレット端末を中心とする ICT 機器の導入は、近年予想をはるかに超えて急速に進んでおり、教員自身の活用能力の習得と授業実践における活用の両面で喫緊の課題となっている。本授業は、「ICT 活用の授業研究」をテーマにして、現職教員を対象とする教員免許更新講習の内容を受講生が企画運営するという設定を中心にした実践的な演習である。教育委員会および本学附属学校園の協力を得て、研究発表会の内容や附属学校教員の授業実践を教材等する総合的な構成とした。」としている。

3. 「学校における ICT 活用」を履修した教職大学院生の学修成果

上記 2.1 の信州大学教職大学院「学校における ICT 活用」では、2020 年度の改組後の最終レポートとして、ICT 活用授業の参観と実践の振り返りに加えて、「GIGA スクール構想の実現にあなたはどのように寄与しますか、今年度の実践から考察してください。」という課題を出した。受講生（学部卒院生、現職教育院生とも）は、自己の ICT 活用授業実践をこれからの 1 人 1 台端末環境に関連付けた考察を行っていた。

4. おわりに

本研究は 3 つの教職大学院における「学校における ICT 活用」関連授業の内容とその履修による学修成果から、ICT 活用に関する教員養成および教員研修のあり方の検討を試みた。今後は他の教職大学院における同様の授業科目に関する情報を収集・分析することにより、検討をさらに深めたい。

参 考 文 献

- (1) 中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会教員養成のフラッグシップ大学検討ワーキンググループ：「Society5.0 時代に対応した教員養成を先導する教員養成フラッグシップ大学の在り方について（最終報告）」https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo_o3/082/sonota/1421812_00001.htm (2021 年 2 月 17 日確認)
- (2) 教員の資質能力向上に係る当面の改善方策の実施に向けた協力者会議：「大学院段階の教員養成の改革と充実等について（報告）」https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/093/houkoku/attach/1340445.htm (2021 年 2 月 17 日確認)
- (3) 「信州大学シラバス検索システム」<https://campus-3.shinshu-u.ac.jp/syllabusj/Top> (2021 年 2 月 17 日確認)
- (4) 「岡山大学のシラバス」https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syllabus_link.html (2021 年 2 月 17 日確認)
- (5) 富田福代，中西修一，尾崎拓郎，乾武司：「ICT 利活用による教職大学院科目と教員免許更新講習科目の有機的連動の試み」，大阪教育大学紀要（総合教育科学），第 66 巻，pp.155-172